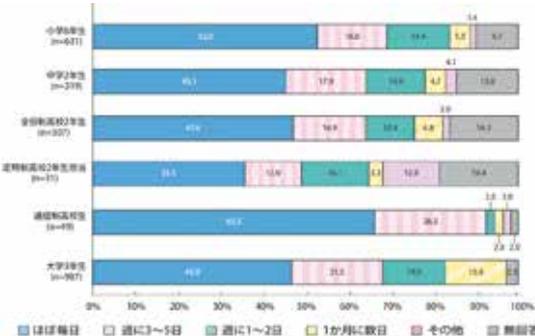


【図1】世話をしている家族の有無



【図2】家族の世話をする頻度(年代別)



出典：厚生労働省「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」（2021年、2022年）

次に、世話をしている家族が「いる」と回答した人に、その頻度について尋ねたところ、いずれの年代も「ほぼ毎日」が最も多く、公立小学6年で52・9%、公立中学2年で45・1%、

「ヤングケアラー」とは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どもを指す。
厚生労働省による「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」（2021年と2022年に公表）を見ると、世話をしている家族が「いる」と回答したのは公立小学6年で6・5%、公立中学2年で5・7%、全日制公立高校2年で4・1%、定時制公立高校2年相当で8・5%、通信制公立高校で11・0%、大学3年で6・2%だということが分かった。これは、公立中学2年の約17人に1人、全日制公立高校2年の約24人に1人に相当（図1参照）する。つまり1クラスに1〜2人のヤングケアラーが在籍しているという計算になるのだ。

ヤングケアラー（中学2年）の中で、1日7時間以上世話をを行うのは11.6%

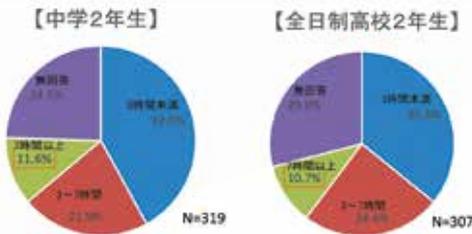
家族の介護や 家事を担う 中学2年生の割合

5.7% (17人に1人)

【参照】

・「ヤングケアラー」を知っていますか？ヤングケアラーを支える取組と私たちができること（政府広報オンライン 2023/12/11）
<https://www.gov-online.go.jp/article/202312/entry-5265.html>

【図3】家族の世話をする時間



出典：厚生労働省「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」（2021年、2022年）

そこで、まずはヤングケアラーという存在を多くの人々が認知し、一人で悩みを抱えがちな彼ら・彼女らに気付いてあげることが大切だ。今ヤングケアラーへの支援は広がり始めたばかり。子どもが子どもらしく過ごせる社会にするために、私たち一人一人でその輪を広げていこう。

本人やその家族に自覚がないケースも多い
ヤングケアラーであることは、必ずしも悪いことではない。家事や家族の世話を若い頃に担った経験はその後の人生で役立つ可能性があることも事実だ。しかし、介護に日常的に携わる中で、自分の時間や勉強する時間が十分に取れない、孤独やストレスを感じる、友人と遊ぶ時間が少ない、睡眠が十分に取れない場合などは、子どもの権利が守られていない可能性がある。また、ヤングケアラーは、本人やその家族に自覚がなかったり、周囲に相談する人がいなかったりするため、表面化しにくいといわれる。

全日制公立高校2年で47・6%、定時制公立高校2年相当で35・5%、通信制公立高校で65・3%、大学3年で45・9%だった（図2参照）。続いて、世話をしている家族が「いる」と回答した人に、平日1日当たり家族の世話に割く時間を尋ねたところ、7時間以上だったのは全日制公立高校2年で10・7%、公立中学2年で11・6%に上っていた（図3参照）。